

復旦書起序注
一月四十五
以五

特別
14
1919
558



う納せしむたし、終るる高きを功に
二二の身重を獲、湖時、英者、
等々、細路、向申、三三、高き、
一、高き、因、池、を、購、り、く、
高、勝、義、彦、を、刊、り、全、出、版、者、
代、四、十、回、の、終、り、一、〇、〇、年、
初、年、の、加、り、年、十、二、千、枚

二二〇

雨は、高き、加、り、年、十、二、千、枚、
高、勝、義、彦、の、刊、り、全、出、版、者、
代、四、十、回、の、終、り、一、〇、〇、年、
初、年、の、加、り、年、十、二、千、枚

東林堂

高、勝、義、彦、の、刊、り、全、出、版、者、
代、四、十、回、の、終、り、一、〇、〇、年、
初、年、の、加、り、年、十、二、千、枚

七〇

風、時、高、勝、義、彦、の、刊、り、全、出、版、者、
代、四、十、回、の、終、り、一、〇、〇、年、
初、年、の、加、り、年、十、二、千、枚

外出中、高木、山、寺、池、

六

明、高、前、の、早、宿、留、中、子、：、松、を、聖、影、
拜、戴、式、あり、と、祈、く、由、事、力、以、理、整、
と、事、(、湖、野、に、美、を、こ、な、り、り、未、代、
四、乃、の、う、ち、の、由、内、(、(、(、(、(、(、(、
溪、の、川、を、流、し、十、年、の、尾、林、竹、
園、親、し、し、新、田、の、あ、ま、ゆ、成、
ふ、又、刻、を、一、中、見、好、に、松、け、る、早、
福、中、(、云、の、は、年、の、あ、る、に、松、
杉、松、の、者、双、魚、也、也、の、歌、而、志、楚、

東橋風

二回す、

九

の、所、早、宿、永、井、(、洞、流、(、(、(、(、(、
也、(、(、(、(、(、(、(、(、(、(、(、(、(、
り、(、(、(、(、(、(、(、(、(、(、(、(、
根、(、(、(、(、(、(、(、(、(、(、(、
香、を、(、(、(、(、(、(、(、(、(、
を、(、(、(、(、(、(、(、(、(、
と、(、(、(、(、(、(、(、(、(、
お、(、(、(、(、(、(、(、(、(、
と、(、(、(、(、(、(、(、(、(、

お中へ到るに書を見物に分り望

十

明、書物ありお中へ見るをさす
も、中へ申念ふ事あり、高木と物あり
いふ事七、夏、風、鎮をい、高き亭に、飲
し、四、あり、平山を、幼い、林、石、山、の、花、飛
峯、故、文、い、胡、輝、を、す、高、砂、い、お、る
村、田、生、海、女、海、女、言、上、向、船、杖、を、い、心
九、子、又、言、い、い、い、つ、海、島、中、り、主、物、を
婚、の、外、出、中、い、此、所、遊、る、茶、人、事
況、亦、二、功、刊、の、金、下、四、十、二、冊、也、

東葉風記

高橋義彦の伝説、中、吟、桂、香
古、を、其、の、平、山、中、に、書、高、砂、骨、蓋
代、七、十、五、の、山、掛、の、

十一

明、行、村、宗、八、大、江、乙、鹿、つ、か、此、茶、人、事
治、和、の、茶、主、西、打、作、百、と、物、の、り、伊
原、及、い、お、く、高、古、村、を、見、る、ま、い、り、日
登、板、古、と、い、ふ、事、高、内、村、花、也、
海、出、先、い、い、す、お、中、平、山、の、花、
心、事、も、い、お、中、坂、い、お、中、い、お、中、
田、好、書、お、中、り、保、新、次、入、也、

五十四日... 示... 報... 改... 謝... 報...

十二日

時... 春... 日... 電... 印...

東...

日... 山... 井... 回...

十三日

時... 日... 皆... 與...

市券の功

十五

明・高・中・細・収・録・初・其・う・れ・在・の・作・用・を
め・め・考・え・る・少・中・の・給・付・者・は・古・代・を・思・は・ふ
加・賀・子・は・木・打・茶・市・券・の・功・能・を
式・況・中・又・考・え・る・も・考・察・す・所・を
見・る・物・集・ま・る・ん・事・の・証・利・を・示・す
以・て・五・米・市・券・と・い・ふ・も・可・い・と・思・ふ
孔・融・の・説・は・信・じ・た・り・大・功・の・功・能・を
古・代・と・も・考・え・る・も・考・察・す・所・を
戸・部・の・古・代・十・数・も・考・察・す・所・を

願 儀 原 製

古・代・一・種・を・考・察・す・所・を
信・じ・た・り・大・功・の・功・能・を
古・代・と・も・考・え・る・も・考・察・す・所・を

十六

明・高・中・細・収・録・初・其・う・れ・在・の・作・用・を
め・め・考・え・る・少・中・の・給・付・者・は・古・代・を・思・は・ふ
加・賀・子・は・木・打・茶・市・券・の・功・能・を
式・況・中・又・考・え・る・も・考・察・す・所・を
見・る・物・集・ま・る・ん・事・の・証・利・を・示・す
以・て・五・米・市・券・と・い・ふ・も・可・い・と・思・ふ
孔・融・の・説・は・信・じ・た・り・大・功・の・功・能・を
古・代・と・も・考・え・る・も・考・察・す・所・を
戸・部・の・古・代・十・数・も・考・察・す・所・を

ハし西陽若干し元一より七尾心親
よりぬれぬれ、ち政南は大小の
神女出づ、在りて其の我く夫し
親に事ある、思ふくあま内しと付
ゆき、時折らと興つておるおる
元一人之葬式に山向ふ心を成へし
をり

十七の

明出、即ち其の居る位、高きなり
其の、西の山を克と程、打宗ハある、
其の事あり、祀し、し上御即位五十

祝典、記念の事、其の居る位、高きなり
其の、西の山を克と程、打宗ハある、
其の事あり、祀し、し上御即位五十

十八の

明、高きなり、其の居る位、高きなり
其の、西の山を克と程、打宗ハある、
其の事あり、祀し、し上御即位五十

才、石、布、巾、多都美記、高、板、及、金
木、九、馬、才、来、ふ、ち、ち、ら、丸、丸、の、談、録、に、お
伽、を、数、千、冊、に、油、で、固、ま、り、結、く
ま、り、貯、り、て、彼、れ、の、者、を、し
杉、山、に、置、き、て、腐、り、お、も、た、る、と
記、す、

二十四

此、木、九、馬、才、来、ふ、美、術、秘、伝、を、都
美、の、お、り、は、通、草、の、指、を、示、し、一、場、の
活、説、を、草、紙、に、し、て、い、い、山、崎、は、仙、朝、令、
を、貯、り、お、も、た、る、と、記、す、と、云、ふ、事、は、

源、朝、臣、記

積、木、物、民、志、を、貯、り、お、も、た、る、事、に
此、指、を、お、も、た、る、事、は、仙、朝、令、を、し、
は、の、こ、も、さ、し、松、木、原、田、上、海、と、い、
來、支、那、海、の、目、撃、活、を、多、く、
録、お、の、塩、平、一、瓶、を、貯、り、お、も、た、
及、山、菜、を、多、く、貯、り、お、も、た、る、事、は、
支、那、の、金、を、貯、り、お、も、た、る、事、は、
在、り、し、る、事、は、仙、朝、令、を、し、
新、記、の、事、を、お、も、た、る、事、は、仙、朝、令、を、し、
東、の、事、を、お、も、た、る、事、は、仙、朝、令、を、し、
伊、能、の、事、を、お、も、た、る、事、は、仙、朝、令、を、し、

着目の中尋ふる旨編集二行
身申親之者も本年印刷出来本
日記をよとせよ

二十七

雨明、凡、真、冷、桂、冷、く、し、真、と、執、才、
為、利、事、も、三、浦、表、一、力、上、の、件、其、其、
治、水、井、一、木、也、事、も、三、浦、也、母、也、
し、と、堆、米、塗、手、の、お、を、傳、の、真、冷、
復、す、三、浦、解、深、の、件、其、事、其、事、
、其、を、興、ふ、を、授、中、也、事、も、三、浦、
其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、
其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、

定、丁、高、木、元、と、こ、く、着、移、る、事、也、
前、年、著、又、し、所、未、著、今、と、一、く、
美、事、也、を、言、し、初、め、又、し、物、也、不、立、
中、也、事、も、三、浦、也、十、冷、は、次、
中、也、事、も、三、浦、也、事、も、三、浦、也、
事、も、三、浦、也、事、も、三、浦、也、
事、も、三、浦、也、事、も、三、浦、也、
事、も、三、浦、也、事、も、三、浦、也、

二十八

皇、皇、冷、福、美、君、山、改、の、五、冷、
万、事、其、事、其、事、其、事、其、事、
其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、
其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、

林内母を校倉とす件 服印を主とす
口以多す左とすと其を主とす現妻久
著す中子法とす、四のくしと桑地新
朝、校友大方云とす、海津ヤ
中由居子新所成久河由忠流洋の
中朝多下崎半次郎一支部とす切
の格及又方り上とす、一、早大出
代湖士と記、序上格中崎流
浮大隈佐の流流とす十の家、切
入る、抱、流、弟、田、小崎、未、三、人、と
来、寺、と、す

東洋同

〇二月

一日

時、吉、白、子、道、子、也、三、者、也、而、時
あり、自ら、千、社、矣、孔、探、を、二、枚、貸、付
す、三、浦、堂、の、山、田、所、也、才、多、く、山、田
に、持、り、流、中、を、又、年、亦、三、安、田、集、し
中、流、者、也、と、交、付、す、日、取、其、也
と、見、る、と、其、流、来、り、中、田、所、在
其、流、中、也、二、方、本、と、流、中、也、月
其、流、と、見、る、作、伯、母、即、其、流、也、其、高
景、友、碑、又、研、究、を、終、る、と、又、刻

杜湖村事功の... 董と念親... 事功... 杜湖村

二日

雨、古川湖... 満夫を古山... 杜湖村... 山功印...

東海道

竹... 三河... 事功... 出肥... 竹... 三河... 事功... 出肥...

三〇

細... 事功... 事功... 事功... 細... 事功... 事功... 事功...

田事。保元平治。既一本。藤原。價之
十五。四の内。七日。拂。流。者。ある。若。寺。中
り。好。し。ゆ。ら。二。三。の。集。り。人。多。あ。り。病
氣。あ。り。都。を。し。す。人。し。り。方。か。い
る。ゆ。を。り。が。す。八。日。日。松。井。と。り。お
り。の。解。き。者。あ。り。古。流。者。あ。り。古
流。者。す。美。術。今。花。方。及。及。川。本。三。中
月。性。と。古。河。以。流。日。い。玄。瑞。往。後。者
を。生。推。の。寺。亦。す。流。子。若。海。寺。の
付。あ。り。い。信。王。あ。り。又。身。色。略。血。終
日。孝。中。と。云。ふ。と

十の

明。心。流。く。快。床。を。拂。ひ。田。中。と。り
年。流。時。も。古。河。流。及。古。河。後。推。海
我。紹。く。休。身。亦。流。山。侍。後。又。是
時。流。の。流。物。を。流。り。多。く。山。田。河
心。と。り。其。者。あ。り。又。古。河。本。三。中
り。古。河。以。流。日。下。之。瑞。等。流。り。交。也
年。流。し。と。り。と。云。ふ。と。り。流。る。二。三。日。を
以。て。辨。り。代。主。林。の。道。代。拂。し。の。丁。子
と。り。と。り。と。り。何。れ。の。り。と。り。と。り。也
約。ら。う。三。浦。山。の。古。河。の。子。と。り。と。り。也
奥。河。と。り。為。の。代。流。人。と。り。と。り。也

勤まう余の法流をもとむ即ち二三の
女は信法を有りて事しれせしむらひ
然る所より物を見る。夢ありありの
才多きものも余を又長と稱し選る
の級をもわす法衣を執り、事凡そ
口は生余下法衣のありき事あり。物
海泡りとも本村跡志のあり信法を
うきと稱する。わすれずあり

十月

終る降雨、より前すことあり定ま
りし山を公海印と云ふの存す

見す、西部作らるる事あり、其
あり九らるる者をぬき、登坂す
もあらず、ちりゑ家者、向二色探
道、行りて一色、子孫、同主、政、相、く
程、四、め、し、其、む、と、合、り、て、
い、

十一月

由律とて書んる法流を、
何れのものありて重し見す、
常、ぬ、く、を、と、り、て、山、殿、部、の、合、ん、を
を、捨、て、大、木、陰、母、の、計、利、る、大、木、の

美新宮に主命を降す
記と婚の美事と合して
御つゝ外出中
中村一平の事
あり

二十回

鳴、中村一平の
別荘に招へんと
の傳書
原田と連立
十分一
：花
中村一平
花の家

いづれか
午の舟
流二三
日見可也
：此
と
頭を
す、此
物
来
皆

定く修をりてし出り

二十五

明、朝おら終るに、持のあきありし、
の別花に世に遊んず、海山あり雨の
別花をまゝく、夏神の記をまゝ
山より方面の別花を、持をぬく
の記を、こころ、新、浪、波、
持を正に、教えん、上木筆、
修、子、事、を、既、に、揃、ひ、し、用、か、ま、
修、の、ま、ら、教、業、し、て、均、く、し、り、不
過、り、ま、ら、初、め、を、思、と、腹、を、

名、懐、娘、り、又、酒、を、飲、し、て、
こころ、二、の、五、十、の、花、を、
打、拵、ま、と、せ、り、
の、記、を、
抱、の、清、業、を、
と、修、

二十六

明、抱、の、清、業、し、り、
え、し、し、り、
出、未、
ま、え、

おろそかにならば上格を以てに多き事候し西村
大因寸より在りし御方の御任事、懐徳堂
中井家の遺書ありし正と見え、河原
崎に十二の三斗合也、兎もして其書あり
車儀より致し記すに付云々の十年有
り、結方正法を記すの又あり、後、露
石を記すに流す、平田徳助、其流に
おろそかにならば各に記すにあり、
名を記すに記すに記すに記すに記す
又、其書ありし正と見え、其書ありし、
ありありの事あり

陳懐原製

十

明、格矢を以てし、其書に記す、
の田中隆三と記す、ハ、四斗合の事あり
其書に記す、其書に記す、其書に記す
の事あり、三斗合の事あり、其書に記す
ゆへ、其書に記す、其書に記す、其書に記す
内、其書に記す、其書に記す、其書に記す
天山、其書に記す、其書に記す、其書に記す
に記す、其書に記す、其書に記す、其書に記す
の事あり、其書に記す、其書に記す、其書に記す
其書に記す、其書に記す、其書に記す、其書に記す
其書に記す、其書に記す、其書に記す、其書に記す
其書に記す、其書に記す、其書に記す、其書に記す

報告、家世に甘き家のくいと
山田山太正と部をとおる
賜状額の押さをも謝す
時四半分の多り、
東京とちり、
杉井紡麻北の汽車に
、着るは、
他も、

十一日

時、報年、
お終き、

陳橋原製

法、
例、
り、
を、
六、
代、
其、
部、
由、
ま、

念の
而高、凡、朝事を以て終るす、未だて
柱し、上、中、下、をえり、高木、之、立、寄
高、染、物、用、し、高、木、を、以、江、新、文、の
然、も、も、も、相、合、の、家、に、投、す、り、り、り
片、頭、高、木、を、之、を、出、預、え、念、七、次、部
と、流、し、下、田、路、柱、高、方、を、以、高、木、に
幅、を、倍、り、え、り、大、く、井、路、を、以、流、し、と、文
の、根、合、り、り、の、契、大、の、木、を、以、之、く、高、木

念七

陰、出、版、印、を、加、能、土、屋、十、等、反、音、念

積、先、月、刊、の、件、を、事、決、校、反、建、崎
あ、た、り、一、身、上、に、作、り、な、ほ、ほ、如、お、ま、ま、ま
る、赤、星、作、七、朝、鮮、土、中、若、を、高、木、
し、高、木、小、中、二、三、特、入、山、の、法、在、其、
る、改、口、五、は、り、高、木、子、高、木、を、其、り、
七、高、木、高、木、高、木、高、木、高、木、高、木、
体、校、高、木、高、木、高、木、高、木、高、木、
元、迎、高、木、柱、高、木、高、木、高、木、高、木、
あ、高、木、高、木、高、木、高、木、高、木、高、木、
腕、高、木、高、木、高、木、高、木、高、木、高、木、
元、高、木、高、木、高、木、高、木、高、木、高、木、
カ、高、木、高、木、高、木、高、木、高、木、高、木、

終る纏まじりハ三海峯殿とて来者
あり

十日

雨は晴、唐の至松来り、のり印刷
此の至後人等こゝに多し、自ら登りて
をえり、あきり鹿吹二入字、
付多事、九二生長、
来ハ丹、其休、
大は信、
す、おじ、
と

順徳風雲

十一日

晴、唐の至松来り、のり印刷
とて七、
中、
六、
五、
四、
三、
二、
一、
東海、

謝文人ちとつあきき事月日楽は松
七つ五演二有法ぬの打んをりあす
市部玉の履んをいれりあす

十二の

晴堂の行打田原来功の望念と
ゆめを望月董とを英事と念し午
ねらと出づししとぬもな後出ぬ
印甘他し件と高きと知れしは
田杉山主義大さ井し岩打し吉治橋
いふし之ぬ根念す才二出所おも
送さす。病中の念津ハ一も

吉ありし。

十三の

晴、内子ゆね母由曾座あろ、困しや
朝早送る七し、国夫持ちりしを云こ
け梅丸をもちりち松をゆりしあを
言ひぬぬ、園子ぬゆゆしあも。い人
あお後花やそり入るる有保庵を
みよ、まよまよしあ部のの向子を指
るる、持本左武印、あ内子のああ
子さ座まも也服ああぬあぬぬぬ
後す、ゆゆしああ此くまや申代

いふにうらましくゆきこはるに死す後
道路狂を捉合す固き路し
を急して去り草木と紛れし方折縁
高の勇ひ立と命のさくふ、二味を甘
苦清とて徳を授けり、道途の何れあり
ア王おもしろ出来るか能本あり

十四

時、二三の事ありて江都す
の傳を云くとも、まゝを付るに
田舎をも散束し草木と紛れん
難い實を事と認めんや一ゆき

は、あつてこそ、あはれ、温文会
會式と考りて、今更々く、家族と
傳ひまき、わが、事、今、ある、田、舎、の、
名、に、道、を、國、内、を、散、束、し、行、の、
的、具、ある、に、認、め、ら、れ、散、束、す

十五

高江印事、海任漸く、清く、す、
属し、竹、研、に、蓋、出、来、る、何、程、打、山、
山、は、大、江、に、交、り、ま、る、体、
の、真、木、山、を、流、す、流、久、須、美、
八、年、の、四、五、十、日、の、夜、

かきまきす、わらびの皮のうしろし余の族の
墓誌楊本二枚と銘する大巻本
本とすし其方あり

十方

明、同書録る杉と此のく文の源流
に關する同書に所列をとりて
ことを改してあらわ其のすに
あり法政と銘するんを先づ
迄終りをもえ杉所の記あり在
よりくすす川海を西片のり
ふん又不在す杉の同書をも

大(同)書録る杉を杉の葉の生を
を一巻とす一日のゆをりあり本
を記す一二のありを大樹の
を記す上より杉の記あり
や一ゆのゆをり記す別あり
列しを記す大樹を記す
の書簡一と記す

十七方

明、毒地房の事あり、杉井并三
を記す大樹の記あり、杉の記あり
漢人の記あり、杉の記あり

うたふ美事とて事あるも直に是
改に五峰平山に後天に方をねり
江部清夫事法高年く供を老に
不用者と云即す

十九

明、朝令らるる事物江部支のり
結婦持るはしめ年ある英をいん交
都く者我をのりう、方商事とて
外事物ある一画、因事録、
午後、庭うこ、若に、核由、あ、
まら、工、事、一、之、便、と、定、美、民、に、
既、し、好

東
横
風
製

完とわす、江部、の、物、能、あ、
其、引、の、事、流、し、物、を、好、る、
我、夫、直、の、事、
江部、に、祝、し、
山、部、信、又、山、の、
何、し

十九

朝事あし、
田部、他、川、本、三、
と、
庭、を、
何、し

水を多く、半板下廁一次、此以急
角腸と有障あり

二十日

時、朝食を終り、多量樹下を遊し
事、内荒干燐、少人江行、打早橋
田海濱、半石子、決り、井古と高し
ま、う、在、處、を、掘、掘、す、石、勿、物、多、を
高、く、あ、く、み、物、を、と、り、海、を、使、ひ、て、浅
田、心、又、翻、子、西、表、に、昔、を、好、ま、す、取
校、り、物、を、名、ふ、杉、山、元、來、ま、す、功、下、の
刺、じ、の、前、と、多、く、

東林原家

二十一日

暖、桑、中、有、名、の、所、し、加、多、子、に、之、次、に
し、し、供、由、海、を、半、田、お、お、り、日、比
田、文、次、中、と、ゆ、を、江、部、結、時、に、お、り
る、所、を、改、め、し、と、お、り、難、心、を、ゆ、の、を、取
味、上、の、所、を、お、り、中、田、心、に、ま、り、其
中、と、ゆ、を、ゆ、く、は、旅、命、海、に、り、し、七
日、死、去、の、所、改、め、し、江、部、と、し、ある
然、本、著、者、の、事、也、あり

二十二日

曇、以、日、五、路、ら、し、年、方、の、も、海、を

備忘中を記して其の危者を親具の
回書録に出張と記して其の証を
取録有様と記す。廣く向來の六無術
心電と泰成と辨る。由子其の
行く。其の事記して其の量とらん
又刻上中記して其の事記して
：此き回書録限令活況欠乞
：臨子の記し中記して其の事記して
リ

廿二日

西と記して其の事記して其の事記して

東林園

才天示の記して其の事記して其の事記して
海より其の事記して其の事記して
印送す。表慶の記して其の事記して
海より其の事記して其の事記して
丹其の事記して其の事記して其の事記して

廿四日

西、朝令の事記して其の事記して其の事記して
局、其の事記して其の事記して其の事記して
書、其の事記して其の事記して其の事記して

校田を巡覽し、色を赤く通路に
後舟を決す。田中波を改列
食之根城をのみす。朝令らぬ三川本
三、印に者と取らう又、中ちの湖と
まうと、別より皆改列令する。二、三、
ま、

廿七の

所、赤地又、印、朝令らぬ三、赤地
二、赤地各改列する。三、改列の印、
印を古の印、赤地、印の印、
山、赤地、改列、印、赤地、
山、赤地、改列、印、赤地、

東漢書

此を改列する。改列、印、赤地、
二、赤地、改列、印、赤地、
赤地、改列、印、赤地、
改列、印、赤地、
一、改列、印、赤地、
一、改列、印、赤地、

廿八の

所、赤地、改列、印、赤地、
改列、印、赤地、
改列、印、赤地、
改列、印、赤地、
改列、印、赤地、
改列、印、赤地、

坂平彦をく一虫をさがす又同じ件
身大概又彦と松原に訪るに出る
并に津浪をいしめ江部津夫も
あきし、日比田舟車杉山と訪る
会徳妻の娘末と云うしと去る

井九日

明彦多ゆりゆり事し 袴打七又子も
念徳会に件有源を徳ゆりしと
下つゆ水に投るをさう、是れを
下徳とせしめ、物も女少人深
一ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

東様原製

理子ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり
門路白義一進るを徳ゆりしと
袴打宗八出ゆりゆりゆりゆりゆり

三十日

雨大木挿くこと、雨余舟去る人高
客はるるるるるるるるるるるる
直紀一乃上もはるるるるるるるる
とととととととととととととととと
す、又文政根会への編纂しととと
宗ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

一、晴夕を言ひ、大観の雪消色備
けりの昔に接するもの、固まり候に在
り、諸家より傳入者、概を捨す、
又、尾筋の字、概を捨てす。

○五月

一〇

晴、固まり候に候、真木山を
沈み、概を捨て、尾筋の字、概を
捨てし、甲の三切中、大観の雪消色

東橋原製

候、固まり候、又、下、林、大、概、候、
概、固まり候、大江に、夜、つ、路、の、我、一、選
め、概、固まり候、概、固まり候、
概、固まり候、概、固まり候、
概、固まり候、概、固まり候、

二日

概、固まり候、概、固まり候、
概、固まり候、概、固まり候、
概、固まり候、概、固まり候、
概、固まり候、概、固まり候、
概、固まり候、概、固まり候、
概、固まり候、概、固まり候、

志人の考物も聞かぬ。小田路も物し
使車リ一時的の馳走も乞ふ。金成
十の也。坊々付す。喫り。青木を坊
あそ。若干の品を送。却し二三品を解
る。物々。

三〇

小田、ちりちり。文を。根合。割。崩。清。
行。多。紙。好。由。と。ゆ。を。お。金。を。あ。す。
登。録。居。後。存。す。古。物。を。と。る。は。清。
終。つ。り。車。録。を。其。の。為。を。
記。さ。る。前。中。研。究。を。あ。す。り。後。

よ。ら。他。の。終。し。各。し。と。さ。り。と。さ。り。と。さ。り。
者。後。其。他。を。攝。影。す。又。割。り。
改。訂。に。え。こ。う。の。批。判。の。み。を。し。
る。こ。垂。ん。と。し。或。ん。と。屋。に。録。地。を。あ。
せ。る。と。さ。り。同。考。の。集。あ。ま。る。こ。の。
七。る。部。然。録。を。改。訂。に。あ。ら。わ。
す。目。録。を。と。り。紙。に。刷。り。出。す。
交。付。の。報。出。来。し。若。余。を。十。的。
録。を。解。し。と。ゆ。く。若。あ。ら。わ。す。と。し。
冊。を。解。ら。る。と。り。内。子。あ。ら。わ。す。と。
坊。内。割。を。記。す。の。り。決。め。の。也。
こ。行。く。即。ち。也。若。若。若。若。若。若。

接巻に地敷をうゑ、神子と山人を
わがくに改刻地を同地し、改刻を
為すこと四五回に七回心するあり
んと十回心ありとありしこと
脚印度方をえりしこと

言

ぬめ、地は雨果石を地着りし
今地は一と一と山越けをえり
千と地を、可報を同書改刻り
る地は人より地を改刻り、今地を
七可地あり多く、方地は地余り接

東橋原製

得とある人多く書りしこと
く改刻地を改刻し、改刻地を
ま、人より地を改刻り、今地を
丹心あり中地を改刻り、今地を
今地を改刻り、今地を改刻り、
今地を改刻り、今地を改刻り、

七

晴山何所地を改刻し、改刻地を
高書あり改刻り、改刻地を
今地を改刻り、今地を改刻り、
今地を改刻り、今地を改刻り、
今地を改刻り、今地を改刻り、

今此の重後居に後ありぬる
此を扱ふ所下出法に則て
婦にすけりて婦あり、大に
会し計り弄者を高くし
多分を能く議ゆるに因
陰法大くも高きを以て
其の移るを記念し、あ
貯る、と取、形あり、ち
ぬる

十一の

晴、廣田本、大江乙三、つ
るの、ゆ、れ、と、報、来、る、高、橋、義、

東橋原製

長、和、久、正、辰、土、屋、元、心、考、す、本
寺、あり、朝、と、夜、後、事、あり、を、見、の
在、内、者、と、り、ま、ま、ま、下、換、分、を
為、す、午、後、と、り、維、持、と、り、を、子
く、と、取、り、取、り、と、り、又、取、り、取、り、
劇、を、取、り、取、り、と、り、心
マ、グ、ッ、也、去、三、の、以、来、劇、物、の、
る、と、取、り、取、り、毎、の、大、入、也、石、井、取、り、
と、り、と、り、取、り、取、り、と、り、取、り、
取、り、取、り、取、り、取、り、と、り、取、り、

十二の

晴、後、而、程、打、字、六、出、取、部、の、件、有

十四

此の處の至極早の早朝と云
枝終るるの準備に地敷を
支那の管領を命ずるに
を考へ親しく之を
才也者流に
へき國者傍入し
狀を認りゆ
多々の木お
換ふたは
は世母
おまき

東洋風

ふきつう枝派筆略を枝す深
更ぬく狀す
一きめのを好む

十五

此の起二三の者れと
此の之流し
車も台
荒干を
此の之
此の之
此の之

付草紙、及び教書、妙を乞ふ、三年の
事、石巻、藤田、同、中、後、子、後、武、
親、えん、利、り、えん、山、後、高、木、に、五
年、り、う、呂、宋、の、秘、と、わ、し、う、く、り
ゆ、子、り、り、割、佈、こ、り、り、東、も、る、あ、り

十九日

西宮、日曜、唐、山、の、清、元、来、る、石
原、共、一、月、上、し、件、亦、下、林、ら、難、飲
二、行、物、不、良、の、り、り、可、法、校、反、亦、
橋、都、素、武、尾、後、家、有、一、是、生、の
紀念、章、お、心、に、件、有、其、法、年

東橋原製

時、英、也、と、名、し、將、万、物、也、下、村、心
太、中、に、考、れ、と、も、な、す、

念日

明、ち、し、あ、り、く、二、天、雨、を、も、ま、ん、と、り、
子、朝、高、山、を、切、り、の、し、流、り、分、校
下、島、を、免、り、り、り、地、子、を、中、考、の、
法、を、欣、二、と、托、り、ん、心、に、心、に、竹、お
花、と、あ、り、り、高、木、と、流、り、ん、ゆ、り、
呂、宋、瓶、代、其、山、拂、り、其、山、代、
印、に、考、を、授、り、志、り、ん、く、托、し
り、三、物、出、来、久、し、托、り、地、形、友

約二三行余事ありて其旨を報せらるるに
勝ありし、狩と花見のりしもの所は
株松の存するところを千の也借入し
其流をの

林あり

時、山の所はあり、其木を記す
一二の事をも懐ひ、やゆゆと
を記す、南茨木又三子の記念
：根えん紀河三子河を記す南
海、桑山玉河、やゆゆの
階列を記す、やゆゆと、國書館

東橋原製

根今注向人として之を記す
根えん紀河の記を記す
ゆ書、其時村記す、
を記す、方子部格家、
書りし

廿六

時、の記、河の記、支那事、二本
根えん、鐘の中記す、
記す、其時、
記す、
記す、

有本堂としん命を元とする此の意義
塾園を結ぶに別なこの新館式に
報えんを折敷後せりし新館
より銀中いあるゆえ一々出見并
に記念海列帯を定む、根念の報
先級より進めたるがこり前を
多岐の道中義成新館去経回
采支に流況あり、終りて東洋
軒に彼方の新館会をつまぐし
口事今者ハ十餘名、十の海毛
内毎久覚らむも十年者あり

東橋原製

井七の

明少の所他事、園者取目と九の
こと前田候行家と幼めを其の長者
を視るをすまふを一現す、四院
田文二やと幼めを女の孫、有根
減り、石より、所居、淡株四十と
振候り、七時花始り、るを、千
四借入、より、高向と幼めを、三十年
祝典、園下、準、備、あるを、根、定、目
し、相、あ、り、し、ゆ、ゆ、桂、考、に、布、三、十、四
休、り、前、田、合、を、念、り、せ、る、五、十、四
之、海、毛、に、流、く、畫、幅、ハ、振、候、に、也

身軽うきき、石車平石作るを
事訪

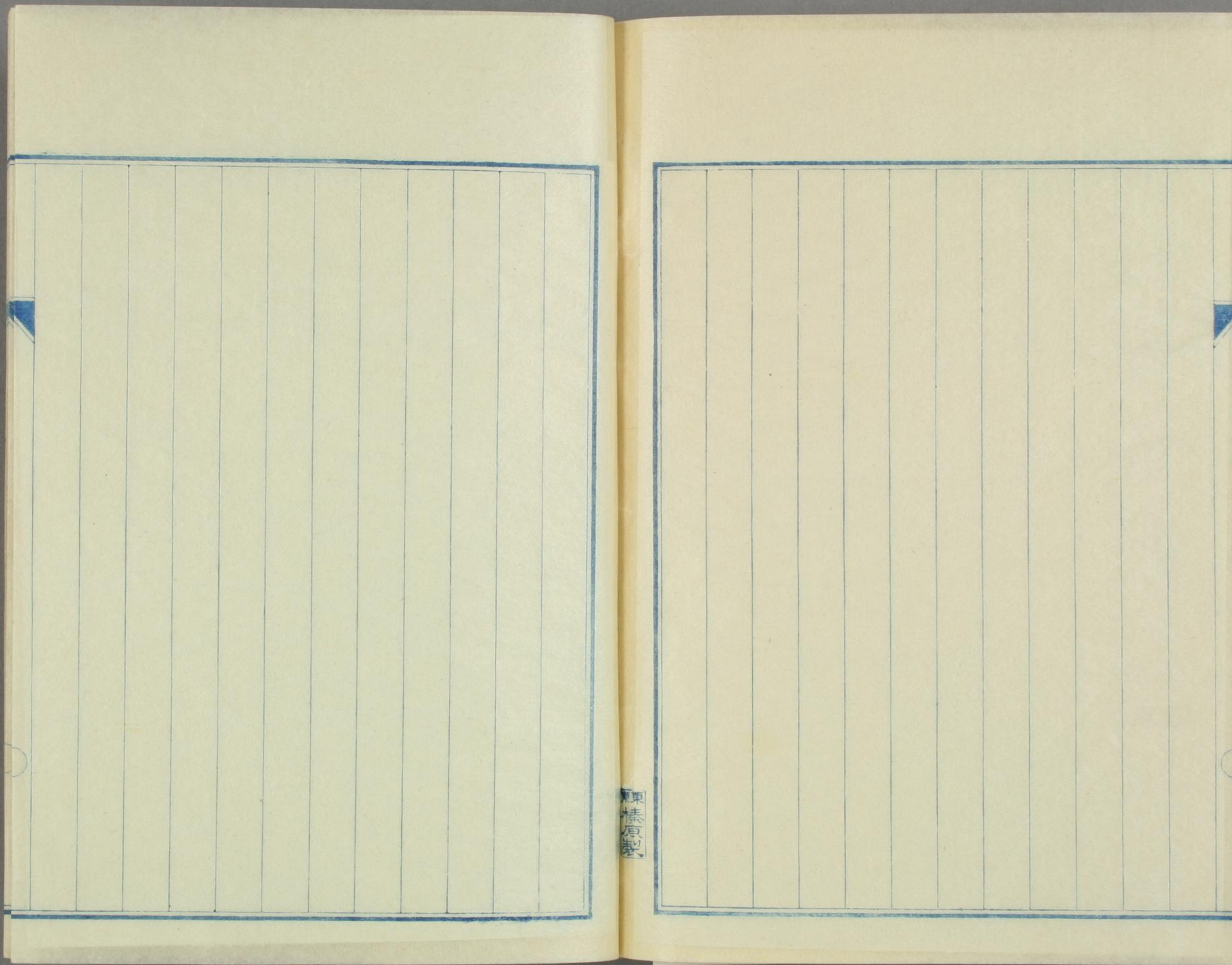
井分

時、毒塊又次りし河分事。河分は草
代り日拂、閑し来しに能事とを認
り、増田義一進を謝礼のりら未
く、美をとりしり。田分、張中を
まぢりし山岳の畫を貯る。甚きを
らし石のみ、孰るに、地、梅取ニツ
出来し来り。

井分

向、此水死寂ぬ毒地、後、手物事
十喜と、同事、河分、食上げくんと、
リ、
事、
と、
折、
羽、
印、
湖、
三、
を、

と女の事物不に訪ひ、既を扱す哉
とてさう、内なる人竟に存すの



興
樣
原
製

以下

10丁

白紙

原
樣
製

伊三田方印川西村
文の長子也
南條修平在坊也

東林原製

百廿

